



愛媛大学社会共創学部の 学びを可視化する



愛媛大学社会共創学部の学生が学部の教育で何を学び、何ができるかを、企業の皆さまに理解していただくために、ecripDSD(ディプロマ・サプリメント)を導入いたしました。

STEP①

社会共創学部の教育 —育成像・カリキュラムの特徴—

社会共創学部は、地域の課題解決を担える人材の育成を目指しています。社会共創学部のカリキュラムは、座学(理論)とフィールドワーク(実践)を相互に実施することに特徴があります。このため、社会共創学部の学生は、フィールドで生じた課題に対処できる実践に活用可能な理論を学習し、学生間のみならず多様な現場の知識(実践知)を持つ人々とともに対話を重ねながらフィールドワークにおける実践活動を積み重ねていきます。社会共創学部の学生は、多様な人々と目標達成に向け行動し、問題意識をもって学習し続ける人材です。

多様な地域課題

グローバルな気候変動と自然災害、地場産業の衰退、農山漁村の過疎化、事業後継者不足・地域リーダー不足・文化芸能継承者不足 など



課題解決

環境設計・防災対策、産業の振興・地方財政再建策、地域おこし策、新規事業者育成、地域リーダー育成、文化芸能継承者育成 など

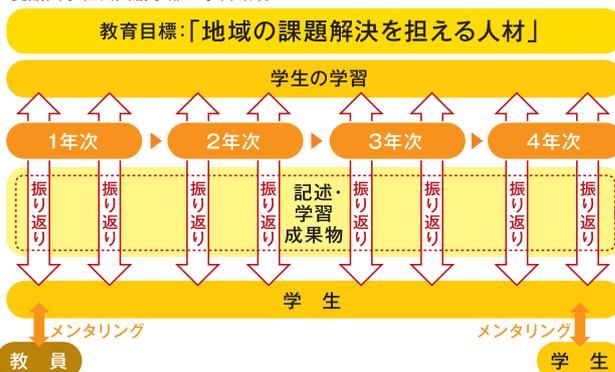
STEP②

ecripの活用で学習力を深める

学生の学習を深めるのがecrip※(学修ポートフォリオ)です。学生は、ecripを活用して、半期に一度学部で学んだ内容を振り返り、何を学び、何ができるようになったか、これからの課題は何かなどを記述し、学習成果物(レポート等)とともに保存します。振り返りの内容は、教員・学生相互に公開され、コメントを受けることで、新たな学びに気づきながら学習を深めます。

※「ecrip」は、愛媛大学(Ehime University)の「e」、社会共創学部(Faculty of Collaborative Regional innovation)の「cri」と様々な学習成果物からなる学修ポートフォリオを想起させるクリップ(clip)を掛け合わせたものです。

愛媛大学社会共創学部の学習環境



半期に一度の振り返り



理論と実践を融合したカリキュラムで学生が何を学び、何を実践したのかを可視化する。

ecripDSDで 愛媛大学 社会共創学部生を 知ってください。

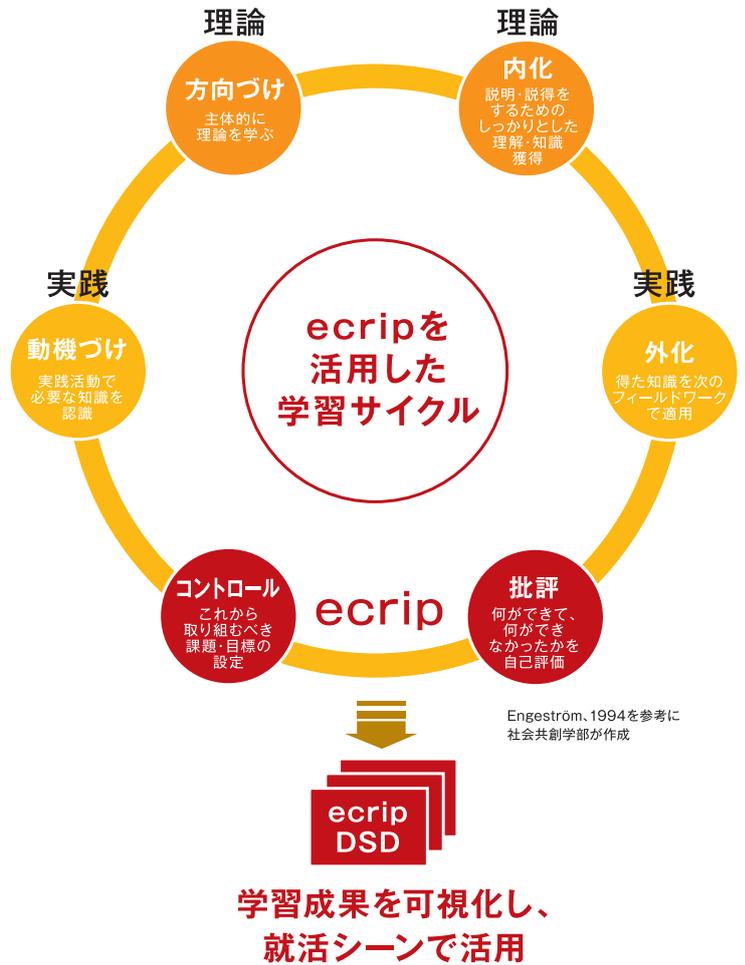
STEP ③

就活シーンで学習の棚卸

—学習成果の可視化—

ecripで蓄積した学生の学習履歴のうちベストな学習成果を整理・抽出し、成績データとともに社会共創学部の公式な書類として出力します。したがって、書類の内容は、学生が学部で何を学び、何ができるようになったのかといった学習の成果を客観的・具体的に示すことができるという点で、これまで困難だった「大学教育の可視化」を実現する画期的なものです。

ecripDSDは、従来のエントリーシート、履歴書とは一線を画すもので就活の面接時などに活用されることを目指しています。



ecripDSD出カイメージ

愛媛大学社会共創学部
ディプロマ・サブリメント

社会共創学部産業マネジメント学科
4年次生 共創 太郎



成績判定における学習状況

※以下の成績情報は、2018年前期終了時点のものです。

社会共創学部GPA※ 2.8	総修得単位数 107単位
資格 社会調査士、運転免許	



定量(成績)データを可視化

卒業研究テーマ

社会的弱者と協働したトランスディシプリナリー研究

授業外活動

- 1年次 機能性と紙・芭蕉紙の試作開発**
2017年に開催された第4回「松山地域クラウド交流会」では、優秀賞を受賞。
- 2年次 山岳・文化資源を活用した観光振興の可能性**
地域の様々なステークホルダーと連携し、別子銅山産業遺産や多様な文化資源について調査し、登山と関連付けたモデルを構築。
- 3年次 スポーツボランティア研修会への参加**
2016年度よりNPO法人日本スポーツボランティアネットワークに参加。
- 4年次 愛媛大学防災リーダークラブによる地域防災支援**
「環境防災学」を通じて防災士資格を取得した学生は3年間で500名を超え、リーダークラブとして活動。

書類左面には、学生がこれまでに修得した授業成績に基づき客観的に算出した評価が掲載されます。掲載項目は次のとおりです。

- ① 社会共創GPA ^{注1)}
- ② 総修得単位数
- ③ 資格
- ④ 基礎・理論・応用・実践力達成度
- ⑤ 社会共創学部ディプロマ・ポリシー達成度 ^{注2)}
- ⑥ 卒業研究テーマ
- ⑦ 授業外活動

※社会共創学部では、卒業時点での社会共創学部GPAが1.5以上であることを卒業の要件としています。

特筆すべき活動

伝統文化を受け継ぐ担い手と観光振興との関係性



作成風景



体験写真

定性(活動)記録を可視化

書類右面には、ecripに入力したこれまでの学習成果を振り返り、学生が特に成果のあったと判断した学習経験を抽出し、記述および画像とともに掲載されます。

農産物直売所を核とした地域活性化の新展開

農村は高齢化の進展と高齢化・過疎化が進んでいます。また農業ではグローバル化が進み、地域(ローカル)農業の維持が、ますます厳しくなっています。地域農業・農村社会の課題は山積みです。これまでの研究は、起こったことを分析することがメインでした。これからの研究は、社会でくらす人々とともに新しい仕組みを考えていくことが大切だと思います。必要なのは、前向きで明るい気持ちと情熱です。多くの課題を考えるうえで、私のゼミでは本音で議論できる度胸とユーモアも磨いています。



実際の風景



店頭写真

愛媛大学社会共創学部における学びについて上記のとおり認定いたします。

YYYY年MM月DD日 愛媛大学社会共創学部長

注1) GPA制度は、授業科目ごとの成績評価を、例えば5段階(A,B,C,D,E)で評価し、それぞれに対して、4,3,2,1,0のように数値(グレード・ポイント:GP)を付与し、この単位あたりの平均(グレード・ポイント・アベレージ:GPA)を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度のことです。
注2) 大学・学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学習成果の目標ともなるものです。